



## 日本筆記具工業会

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里2-30-6

TEL03-3891-6161 FAX03-3892-9692

発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会

URL <http://www.jwima.org>

## 日本筆記具をより進化させるためのプラットフォームに

平成26年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年、当工業会の会長という大任を仰せつかった席にて、日本の筆記具が発展するためには国内外を問わず、個人消費者のニーズを的確に掴み、それにあった商品を開発する事、ISOの規格づくりでリーダーシップを取る事、TPP問題に関連する知的財産権での公平な権利確立を目指す事を申し上げました。会員各社の皆様方におかれましても、筆記具の今まで以上の発展と地位向上のために各種委員会や部会に参画し、工業会事業にご尽力いただいていることに感謝申し上げます。



当業界の国内の現状は、企業の景気低下により法人需要が継続的に低迷しているのに対して、個人消費に牽引される個人需要は今のところ堅調に推移しています。個人が自分の為に購入する文房具は、消費者本人が機能や品質に魅力を感じて購入決定することが、購買行動の一般的な流れであり、この意味において的確に捉えた消費者ニーズを機能や品質に落とし込めた商品は、確実に消費者の支持を集めヒット商品として成長しています。このようなヒット商品が数多く発売される事で、テレビ番組や雑誌等のメディアで筆記具や文具が取り上げられることも多くなり、この相乗効果によって個人需要の活況を後押ししているものと思います。

また、個別の商品カテゴリーとしては、スマートフォンを中心としたデジタル家電と密接に結びついたアナログ文具も注目されるカテゴリーとして大きく成長したと思われます。このような新たなカテゴリーを中心に「雑貨系文具店」という新たな業態の店舗で、今までにない消費者への訴求をもって、流通としても新たな提案が数多く行われたのではないのでしょうか。

平成26年は、4月1日より消費税の税率が変更されることに伴い、本年3月にかけて駆け込み需要も起こることと思われませんが、当然、その反動で4月1日以降消費にブレーキがかかり、本年は一進一退の不透明な一年になるのではないかと考えられます。しかし、少しでも明るい未来とできるよう、業界の皆様と一致団結しながら切磋琢磨し、お互いの力を高めて健全で力強い業界となれるよう取り組みたいと存じます。

消費者に支持される機能と品質を開発し、日本筆記具をより進化させるために、会員各社が連携できる情報交換等のプラットフォームとして当工業会も一翼を担ってまいります。

最後になりましたが、今年が文具業界関係各位ならびに会員各社にとりまして一層の飛躍を実現できる一年となりますことを心よりお祈り申し上げますと共に、本年も日本筆記具工業会にさらなるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、新春のご挨拶とさせていただきます。

日本筆記具工業会 会長 西村貞一

平成25年度 年末講演会 人間性脳科学研究所 所長 澤口俊之 氏  
2013.12.18 上野精養軒にて 【講演録】

JWIMA 恒例の年末講演会を 12月18日上野精養軒にて開催いたしました。参加者は約80名。今回は、フジテレビ系の「ホンマでっか!? TV」でご活躍中の人間性脳科学研究所 澤口俊之 所長を講師にお招きし、日頃誰もが関心の高い「脳の老化とその改善法」についてお話をいただきましたのでご紹介いたします。

【講演録】

脳の老化というのはいろいろあるんですけど、実は前頭前野という脳の領域が最初に低下して行きます。この前頭前野が非常に重要な脳の部位でして、“人間性をつくる” そんな感じの場所なんです。ちなみに脳の老化の改善は非常に簡単ですので、サクサクとお伝えしたいと思います。

脳が老化してくると“記憶力が低下する”ということが起こります。物忘れとか名前が思い出せないというようなことです。これは脳の海馬という領域が最初に老化するため、そこがつかさどる記憶する力が低下するのだと言われてはいますが、これは昔の説なんです。今の説では、前頭前野が真っ先に老化して、その後で海馬も老化していきます。

前頭前野は脳の15%くらいを占め、動物の中ではヒトが最も発達しています。そして、その機能は主体性、やる気、集中力、好奇心、探究心などの“未来指向的行動力”や理性、思いやり、説得、交渉などの“社会関係力”を生み出しています。サッカーチームに例えると監督のような役割で、選手をコントロールするために指示を出したり、育成した

り、勝つという夢と目的を持ってそれに向かって努力する高度な働きをします。こういった人間性に関わる高度な脳の力を人間性知能（HQ：Humanity Quotient）と呼んでいます。

嘘をつくというのも高度な脳の作用によるもので、そのとき前頭前野は血流が多く活発に働いており、測定器を通して見るとその部分が赤くなっています。

HQについては、通常20歳を過ぎると下がってきますが、前頭前野を活発に働かせることで、これを維持し高めることができます。一般社員より係長、課長の方がより高度な仕事を要求され HQ も高い傾向にあるので、経営者や指導者は社員や選手の HQ を伸ばすことに腐心すべきです。

また、HQ の高い女性ほど良い恋愛をする傾向にあると言われており、特にヒップ：ウエストの比率が1:0.7の女性は健康的で繁殖力に優れており、男性は見るだけで脳内でドーパミンが生じ元気が出るようになります。

このドーパミンは、元気、好奇心、学習能力と関係があり、だいたい5歳くらいを境にどんどん下がっていきます。子供というのは元気一杯で、好奇心満々、学習能力も高い。それが20歳を過ぎると急激に下がり、好奇心が下が



るのも老化の特徴で、たまには好奇心が湧くことをやってドーパミンを上げるようにしてください。HQの高い夫婦は結婚生活も良好で、HQが高い人ほど人生に成功し幸せになる。つまり、“HQ≒夢をかなえる能力”とみなすことができます。

前頭前野の老化は、脳の血流不足が原因で起こります。夢がなくなったり、やる気がなくなったり、元気がなくなったり、社会性が少なくなったり…。前頭前野が脳の中で一番血液を必要としています。認知症は、始まるのは70～80歳代でもほぼ50歳代で決まります。老化(=加齢)は20歳代から始まっています。

今はやっている脳トレは、ほとんど効果はないことが証明されています。HQは25%くらいまでは向上が可能です。(詳しくは、著書「夢をかなえる脳」参照。)

脳に最も効果があるのが“有酸素運動”です。ウォーキング(早足で20分くらい)は効果的です。ゴルフは、光を浴びてビタミンDを補うのには良いですが、有酸素運動にはなりません。また、血液が流れても栄養がなければ意味がありません。そこで、どういうものがよいか例をあげると、こんな感じですよ。

①赤ワイン、ビール(最近は日本酒も良いとのこと。ただし、ウイスキー等蒸留酒は不可。)、②ベリー類(中でもブルーベリーが良い。)、③コーヒー(1日3～5杯で認知症65%減少。)、④緑茶(1日2杯でOK。)、⑤ダークチョコレート、⑥レプチン(亜鉛の血中ホルモンでサプリメントでは摂れない。牡蠣を食べるのがよい。)

社会的地位が高くなると脳は急速に委縮します。原因は分かりませんが、細かいことまで自分でしなくなるからかも知れません。また、脳は加齢により軽くなっていきますが、重くすることもできます。前頭前野も大きくすることができます。

元来、ほ乳類は子供が成人する

頃に寿命を迎えるようになっていきます。ヒトも本来なら50歳くらいで寿命が来る(閉経などもその頃)はずなのですが、ヒトは50歳以上生きてHQも発達します。それは人類が“後進の指導”という使命を持っているからかも知れません。男は、部下や後継者へいろんな知識・経験を継承するため、女も子育ての手伝いや孫の世話をするため寿命を延ばされているのかも知れません。

脳を活性化し、HQを高める方法としては、①夢を持つこと、②少人数の同性仲間をつくる、③若い異性の友人を持つ、④料理をする、⑤旅行をする、⑥社説やコメントの批判をする、⑦インターネット検索(読書より脳の血流が多くなる)、などがあげられます。

また、脳をリラックスさせるためのストレス解消法としては、

①スクワット(有酸素運動で幸せホルモンが出る)、②良い睡眠(枕元に好きな香りを置く)、③イグサ/ござ(香りが癒し効果)を部屋に敷く、④空を見る、⑤自分の顔・体を鏡で見る、⑥寝る前に手を洗う(嫌な記憶が消え、良い睡眠に)、⑦ボーっとする/パワーカット15～20分眠る(脳が休み、情報処理能力が高まる)、などをお勧めします。

しかし、何と云っても一番良いのは“夢を持つこと”です。データでは、夢を持っている人とそうでない人とは、平均で寿命に7.1年も差があったことが分かっています。夢を持つことで前頭前野に血流を呼び、寿命も延びるのです。

以上、ご清聴ありがとうございました。

(了)



## JWIMA 年末懇親会

### 年末講演会 第二部 2013.12.18 上野精養軒

講演会に続き、会場を改めて年末懇親会を開催いたしました。  
来賓に経済産業省日用品室様、(一財)日本文化用品安全試験所様、(一社)全日本文具協会様をお迎えし、また、文具専門紙誌様にもご出席いただき、会場は忘年会にふさわしく華やぎました。



挨拶／西村会長

きょうは、たいへんいいお話を聞きました。  
牡蠣やダークチョコレートを食べ、黄金比率0.7の女性を見て、若い異性と付き合うと脳が活性化するので、ぜひ若返って、これからもいい商品開発をしていきたい。



乾杯／小川副会長



中締め／和田副会長

## EWIMA(欧州筆記具工業会)技術委員会 出張報告

2013. 10. 1 ドイツ・ミュンヘンにて 報告：塩井恵子（国際標準提案事業委員長）

10月1日にミュンヘンで行われた欧州筆記具工業会（EWIMA）技術委員会に出席しましたので、以下の通りご報告いたします。

### メインピックアップ「新共同体特許」

欧州特許局での公用語を英仏独の3つとすることに決定。2014年1月から施行。

### 欧州の玩具安全性

鉛および六価クロムに関する最近の活動、ビスフェノール A やリン酸系難燃剤等のその他の物質の規制、欧州規格 EN 71-シリーズ、玩具消しゴムのカテゴリー、EN 71-3 の分析値の再現性の乏しさなどがテーマとして出てきました。

### 製品安全性

事務局からの報告。消費者用製品中の鉛の制限強化のスウェーデン提案に対し、筆記具の免除を申請中。筆記具のクリップ等からのニッケル放出をキプロスが REACH 違反として摘発したものの他の EU 加盟国の追従なし。

### 筆記具用の MSDS/SDS

REACH の第 31 条で SDS(安全性データシート)が規定され、物質又は混合物で危険性があるものに要求されています。ところが顧客から一般筆記具にも MSDS を要求されることが多く、提出しているメーカーが多いのが実態です。しかし MSDS の内容は大量に工場



扱う作業者向けであるのに、そのまま「高度に可燃性、皮膚との接触を避けること、保護衣服を着用すること」などの警告を、製品情報として一般消費者に提供している例があることが報告されました。消費者に不要な不安と混乱を引き起こしているとして対応を協議しましたが、結論は次回に持ち越しました。

### ISO 活動概要 (ISO/TC 10/WG 18)

塩井より 5 月に中国杭州で開かれた ISO/TC10/WG18 の報告を行いました。イギリスの提案の安全キャップは活動を完了、次は日本から一般用シャープペンシル規格の NWIP（新規 ISO 活動提案）を提出する予定です。シャープ部会の小野部会長が ISO 杭州会議でプレゼンしたものを、そのまま使わせていただき提案の背景や意図を説明しました。出席者からはいつ NWIP を出す予定かと質問があり、JIS 改正を今年中にほぼ完了させ、来年度に提出する予定と答えました。

以上



## 平成 25 年 第 4 四半期 委員会・部会活動

### <総務 関係>

- 10.8 総務委員会（平成 25 年度第 3 回）  
 ・ H25 年度秋～年末の行事計画について  
 ・ その他
- 11.11 書育推進協議会 運営委員会  
 ・ 第 3 回書育実践賞審査及び授賞式について  
 ・ 書育フォーラム 2013 講演について  
 ・ 今後の活動体制について  
 ・ その他

### <調査研究・広報 関係>

- 9.24 調査研究・広報委員会（平成 25 年度 第 3 回）  
 ・ 2013 JWIMA 技術交流会アンケートの考察について  
 ・ 世界筆記具統計データの収集について  
 ・ その他
- 12.11 調査研究・広報委員会（平成 25 年度 第 4 回）  
 ・ 世界筆記具統計データの収集について  
 ・ その他

### <流通 関係>

- 8.30 お客様相談窓口連絡会（平成 25 年度 第 3 回）  
 ・ 各社のお客様対応事例について  
 ・ 「消し具」お役立ち情報について  
 ・ その他
- 10.31 お客様相談窓口連絡会（平成 25 年度 第 4 回）  
 ・ 各社のお客様対応事例について  
 ・ 「消し具」お役立ち情報について  
 ・ その他
- 12.19 お客様相談窓口連絡会（平成 25 年度 第 5 回）  
 ・ 各社のお客様対応事例について  
 ・ 「消し具」お役立ち情報について  
 ・ その他

### <技術国際 関係>

- 8.27 製品安全小委員会（平成 25 年度第 2 回）  
 ・ 安全関連情報について  
 ・ 筆記具安全基準について

### ・その他

- 9.18 ボールペン部会（平成 25 年度第 1 回）  
 ・ JIS S 6061（ゲルインクボールペン）の 5 年見直しについて  
 ・ その他
- 9.27 事務用修正液部会（平成 25 年度 第 2 回）  
 ・ 修正テープ規格化の検討  
 ・ その他
- 10.10 マーキングペン部会（平成 25 年度第 3 回）  
 ・ JIS S 6037（マーキングペン）の見直しについて  
 ・ 筆ペン業界基準作成について  
 ・ その他
- 10.10 技術国際委員会（平成 25 年度第 1 回）  
 ・ H25 年度上期各部会活動報告について  
 ・ 国際標準提案活動報告について  
 ・ その他
- 10.23 ボールペン部会（平成 25 年度第 2 回）  
 ・ JIS S 6061（ゲルインクボールペン）の 5 年見直しについて  
 ・ その他
- 11.26 製品安全小委員会（平成 25 年度 第 3 回）  
 ・ 安全関連情報について  
 ・ 筆記具安全基準について  
 ・ その他

### <JIS 改正 関係>

- 8.1 JIS S 6013 改正原案作成委員会（平成 25 年度第 1 回）
- 8.28 JIS S 6013 改正原案作成分科会（平成 25 年度第 3 回）
- 10.11 JIS S 6013 改正原案作成分科会（平成 25 年度第 4 回）
- 11.8 JIS S 6013 改正原案作成委員会（平成 25 年度第 2 回）

### <全文協との共催 関係>

- 10.23 知財リーダー会議
- 11.20 知財 3 団体交流会

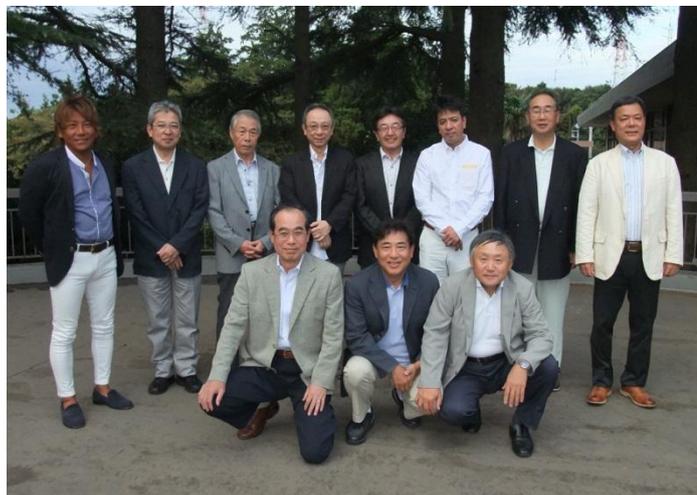


# 第10回 JWIMA 会員親睦ゴルフコンペ

2013. 9. 26 中山カントリークラブにて



10月26日(木)第10回 JWIMA 会員親睦ゴルフコンペを千葉県八千代市の中山カントリークラブで開催いたしました。出席は3組11名でした。



当日はお天気が心配されましたが、絶好の曇り空。今回も名門コースでゆったりとプレーができました。皆さんリフレッシュができたのではないのでしょうか。

今回の優勝者は、東洋繊維化工(株)の山田俊彦さんでした。おめでとうございます。

次回はなんと、西村会長の地元大阪で開催するとの噂が出ています。皆さんご期待ください。

## お知らせ

### ●平成26年 第13回通常総会

第13回通常総会の日程が決まりました。

日時 平成26年5月16日(金) 17:00～

場所 上野精養軒にて

※今からどうぞご予約ください。

- ・有害物質の規定を従来の金属軸からプラスチック軸に拡大。さらに使用対象を「14歳までの子供が使用する...」と限定した。
- ・性能・試験方法について、現状に合わせて修正した。

### ●JIS S 6013(シャープペンシル)の改正

JIS S 6013(シャープペンシル)の改正原案作成委員会が終了し、2月には解説書とともに改正原案を(一財)日本規格協会に提出します。発行は平成26年度中の予定です。

#### 【主な改正点】

- ・多機能ペンの「シャープユニット」を定義。
- ・「一般用」と「製図用」を明確に区分し、品質、性能を整理した。
- ・表示直径0.4mmを加えた。

### ●JIS S 6061(ゲルインキボールペン)の5年見直しについて

9～10月にかけてボールペン部会にて JIS S 6061(ゲルインキボールペン)の5年見直しを実施し、今回2015年に向けての改正は実施せず、「確認」とすることが決定しました。

ただし、2014年に JIS S 6039(油性ボールペン)及び JIS S 6054(水性ボールペン)の5年見直しがあるため、その時に JIS S 6061に関連する改正点が出てきた場合は、3つまとめて改正作業を行うこともあり得る、としました。

## 第 10 回「JWIMA 会員研修会」を開催

本工業会は、10月22日台東区柳橋のベルモントホテルにて、第10回 JWIMA 会員研修会を開催しました。この研修会は、会員同士の情報共有と交流をはかるために毎年実施しており、講座も会員のニーズに合わせて各分野のスペシャリストに講師をお願いしています。今回も30名あまりの会員が出席、それぞれの講義に熱心に耳を傾けていました。



### 【講座1】文化の樹を植える —「函館蔦屋書店」という冒険—

函館蔦屋書店(株) 取締役 CBO 中山慶祐氏

蔦屋書店は、1983年に大阪の枚方市に1号店をオープンし、本とレンタルビデオ店のTSUTAYAとして若者から支持を受け、全国にフランチャイズ店を展開していきました。

その後環境は大きく変わり、企業戦略そのものの見直しが必要となりました。そして、新コンセプト1号店として代官山蔦屋書店ができました。代官山蔦屋書店は、本を買わなくてもコーヒーを飲みながら本が読める書店で、その成功経験とノウハウを生かし、全国中規模都市100店舗展開の先駆けとして、この12月に2号店として函館蔦屋書店をオープンさせることになりました。

函館蔦屋書店は、函館郊外の函館新道沿いで1万坪の敷地に2階建て約2千坪の床面積を有する店舗で、プレミアエイジ（団塊世代）とその家族（親子3代）をターゲットとして、そこに来ることが楽しくて、人と人が繋がることができる空間づくりを目指しています。

文具・雑貨に関しては、次のようなコーナーづくりを予定しています。

#### ■一般文具 「大人のらくがき」

筆記具、画材、製図用品とジャンルに関係なく、書きたいペンで自由に書けるコーナーを作る。ノートやスケッチブックなどもいっしょに置く。

#### ■ペーパークラフト・ラッピング・フォト 「大人の図画工作」

みんなで作業できるスペースを設け、デジカメもすぐにプリントしてスクラップブックできるようにする。

#### ■高級文具 「大人の隠れ家」

大人があこがれるような格好いい万年筆やアイテム、こだわりの小物など。

#### ■児童文具 「こども大学—書育」

書かなくなってきている子どもたちに、書くことの楽しさ、大切さを伝え、書くことによってコミュニケーション能力、創造力、学習力を育てていく。さらに児童書なども充実させ、机も配置して学べるスペースも設ける。ノートの取り方や使い方なども教えていきたい。

#### ■アート 「アートの公園」

世界基準のアートを身近に紹介していく。

#### ■女性向け雑貨 「ママのウィンドウショッピング」

女性が一番輝くのは、買い物で友人と一緒に好きなお店をめぐる時。小さなブースを店舗に見立てて、好きなお店で買い物をしていただく。

最後に、函館の子供たちに「書育」を推進し、書くことの大切さを伝えていきますので、メーカーの皆さんには商品はもちろん、イベントなどにも是非ご協力をお願いします。

【講座2】科学リテラシーの課題

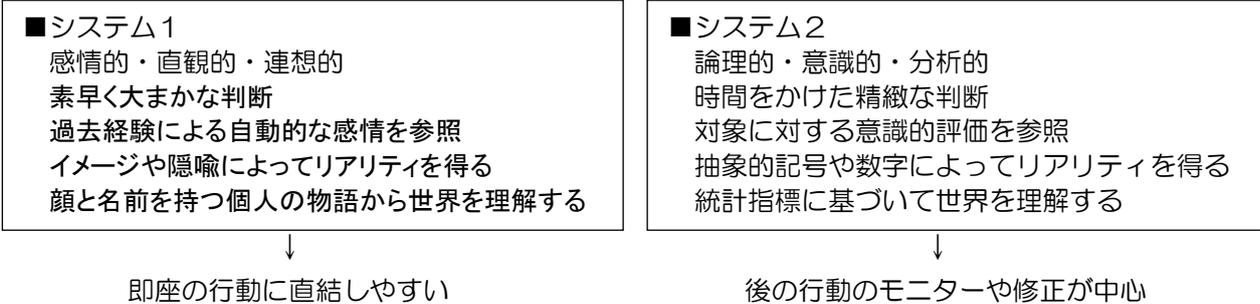
科学ジャーナリスト・麻布大学非常勤講師  
川口 啓明氏



リテラシーとは、個人が判断や意思決定、社会関与する際の基礎的な知識・教養を意味し、最近の社会問題では科学的な側面が多く含まれているため、現代人はもっと科学リテラシーを高めていく必要がある。

BSE（狂牛病）のリスクコミュニケーション（試験機関や消費者、流通、行政などが情報や意見を交換する）のとき自分が説明役で話したところ、「その考えは理解できたけれども納得はできない」と参加者から意見をいただいた。つまり、科学的には正しいかも知れないが、何か釈然としないものがわかまりとして残ったということである。科学リテラシーが向上して内容が理解できたとしても、コミュニケーションがうまく行くとはい限らない。

1960～70年代の消費者像（判断・選択）は、「自分の持っている予算の中で満足を最大にする最適解を選ぶ…賢い消費者像」であったが、1980年代に入ると「まあ、この辺りでいいや…半合理的な消費選択をする消費者像」へと大きく変化した。二重過程理論と呼んでいるが、消費者の行動がシステム1（直感型、即断）とシステム2（論理型、熟慮）の思考モードによって影響を受けて決定されていることが分かった。



日常的判断では、システム1が優先され、人間の行動は理論に基づく判断ではなく、感情や直観の影響が大きい。情報発信には、システム1とシステム2の情報発信を組み合わせることが有効である。消費者がより行動に結びつくのはシステム1の判断で、特定の人物が登場し、イメージが浮かぶような物語を提供することである。これによって消費者の思考はリアリティを得、購買行動の動機付けが行われる。それをサポートするのがシステム2で、その科学的論拠に基づく合理的判断で消費者の購買行動を後押しする。

日常生活では様々なリスクが話題になるが、新しいリスクに対してはほとんどの人が素人レベルで、その問題を理解するためには、その分野の勉強努力によって科学リテラシーを高めるしかない。そして、システム1で即断していないか、またその判断をシステム2で検証しているかなど、自分の判断が間違っている可能性を意識することが大切である。

以上

# 優良工場見学会 開催

2013. 11. 12 (独)海洋研究開発機構、YOKOSUKA 軍港めぐり

11月12日、日本筆記具工業会は日本鉛筆工業協同組合との共催により「優良工場見学会」を開催いたしました。参加者は19名。今回は神奈川県にある(独)海洋研究開発機構とYOKOSUKA 軍港めぐりの見学を行いました。

独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC：Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology）は、我が国における海洋科学技術の総合的な研究機関として、



- (1) 地球環境変動の統合的理解とその予測
  - (2) 地球内部ダイナミクスの統一像の構築と地震・津波の防災研究
  - (3) 生命の進化と海洋地球生命史
  - (4) 資源研究・海洋地球生命工学の新たな展開
- など、これらの課題への挑戦を通して、新しい科学的知見の開拓、先端技術の創生、社会的課題への具体的な解決策の提案を行っています。

見学の行程としては、最初に JAMSTEC の概要説明があり、DVD の視聴を行いました。

次に展示ホールへと向かい、有人潜水調査船「しんかい6500」の実物大模型で説明を受け、定員3名という船内にも入り、狭さも体験しました。

しんかい6500は、文字通り有人で6,500メートルまで潜れる深海探査艇で、世界で2番目に深く潜れる潜水探査艇です。（ちなみに1番は中国で7,000メートルとのこと）

JAMSTECによれば、世界で一番深い海はマリアナ海溝で深さは10,911メートル。ここまで潜れる有人探査艇はないものの、6,500メートルまで潜れば世界の海の95%は調べられるとのことでした。日本近海だけでなく、太平洋、大西洋、インド洋などで、地震の原因となる海洋



底のプレートの沈み込み運動や、深海生物の生態系の調査などを行っています。



JAMSTEC ホームページより

その後は、自律型深海巡航無人探査機「うらしま」のドック（オーバーホール中）の見学を行いました。うらしまの潜行最大深度は3,500メートルですが、複雑な海底地形をセンサーで自ら判断し自律航行できる優れたものです。しかも自立型無人探査機としては世界最長の317Km連続航行の記録を持っています。将来的には最大深度6,000メートル、連続航行3,000Kmを達成で

きるように改良し、北極海の探査を目指しているとのことです。

次に見学したのは、「高圧実験水槽」と展示室のある棟でした。高圧実験水槽は、水深 15,000メートルに相当する圧力までの深海環境を再現して、各種機器や材料に対する耐圧試験ができる装置です。水深 15,000メートルの水圧と言うのは想像が付きませんが、隣の展示室にはぺしゃんこなった金属バットや数センチくらいの大きさにまで縮んだカップ麺のカップなどが展示され、深海での水圧のすごさを紹介していました。

普段接する機会のない技術分野の見学でしたが、日本の技術水準の高さを目の当たりにしました。

昼食を横須賀の「魚籃亭」で取って、しばらくドブ板通りを散策し、午後2時から汐入棧橋で船に乗って「YOKOSUKA 軍港めぐり」を楽しみました。

横須賀港は、アメリカ海軍施設と海上自衛隊の司令部がある港で、一般の人も「軍港めぐり」というクルージングツアーでアメリカ海軍と海上自衛隊の艦船を間近で見ることができます。私たち一行も軍港めぐりの船に乗り込み港内を一周してきました。あいにく空母ジョージワシントンの姿は無かったのですが、米海軍のイージス艦や海上自衛隊の護衛艦、潜水艦など、それぞれ展示場の様にたくさん繫留されていました。本物はやはり迫力があり、見ているだけで子供のようによくわくわくしてしまいました。



## アメリカ貿易統計より 筆記具類の輸入 2012年

金額: 1,000US \$

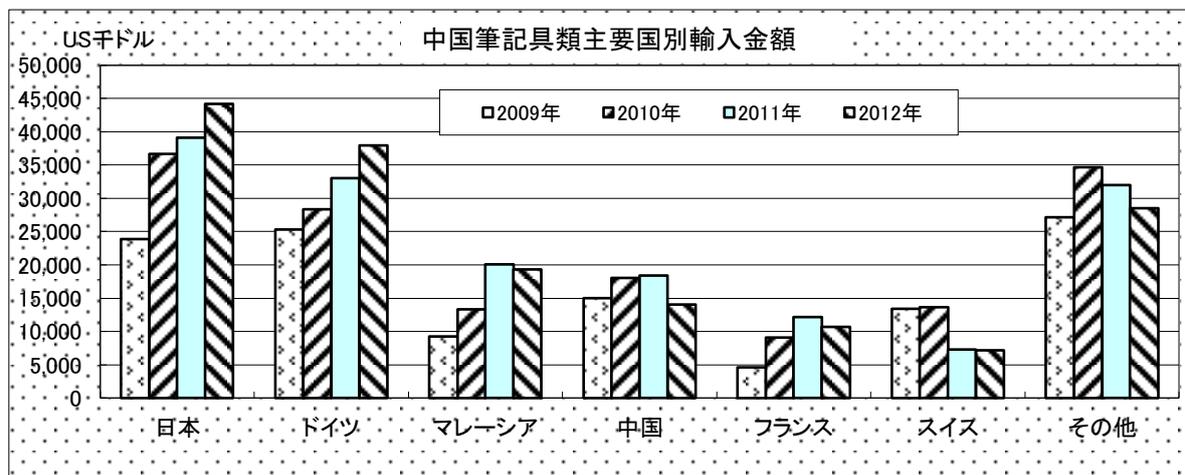
品目	数量	単位	前年比	金額	前年比
ボールペン	2,820,968	千本	-24.1%	587,503	0.9%
マーキングペン	1,567,632	千本	-1.6%	209,903	4.7%
シャープペンシル	684,652	千本	-6.2%	87,330	-5.6%
万年筆・製図ペン	13,972	千本	12.8%	24,732	13.9%
上記組合せ商品セットもの	1,571	千本	-56.2%	1,667	-46.4%
鉛筆	24,328,117	GRS	-12.3%	192,772	-3.0%
完成品計	—	—	—	1,103,907	0.5%
ボールペン用中しん	441,077	千本	-5.9%	19,174	4.6%
ペン先及びニブポイント	830,015	千本	-41.7%	13,678	-50.4%
筆記具の部品及び部分品	—	—	—	57,050	35.5%
鉛筆しん	6,002,837	GRS	37.6%	19,272	13.1%
クレヨン・パス	—	—	—	94,591	15.3%
その他計	—	—	—	203,765	8.9%
合計	—	—	—	1,307,672	1.7%

アメリカの筆記具輸入は、2009年の世界同時不況以降順調に回復を見せてきたが、2012年は1,308百万ドル（前年比+1.7%）となって少し勢いが弱まったように見える。

品目別に見ても、数量は前年比マイナスが目立つのに金額は横バイもしくは増加という傾向が見える。例えばボールペンでは、輸入数量が前年比-24.1%であるのに対して輸入金額は+0.9%となっており、単価が随分上がったことがうかがえる。原因は、メキシコ（-40.3%）、インド（-41.6%）からの大幅な輸入数量減で、景気が回復した分、安い物では飽き足りなくなってきたのだろうか。

## 中国貿易統計より 筆記具類の輸出と輸入 2012年

2012年の中国の筆記具の輸出金額は2,160百万ドルで、前年に比べて7.0%増加した。ただ、主要筆記具においては、金額はプラスであるが、数量でマイナスになっているのが多く、明らかに単価が上がっている。（ボールペン -3.6%、マーキングペン -2.5%、シャープペンシル -20.5%、万年筆 +1.7%、鉛筆 -4.8%）片や輸入は、162百万ドルで前年比 -0.1%の横バイであったが、日本、ドイツなど筆記具先進国からの輸入は年々増え続けている。やはり経済的にゆとりができると、誰でも高くても良いものを使いたくなるのであろう。



※上記資料をご希望の方は、JWIMA 事務局までお申し出ください。